

アフガニスタン国

図書普及活動を通じた初等教育の質的な改善事業

2007年10月～2010年9月

社団法人 シャンティ国際ボランティア会

## 1) 事業実施の背景と必要性

### 1) - 1 アフガニスタンの概要

1919年に第三次英ア戦争を経て、英国から独立。73年にクーデターが発生し、共和制に移行した。79年ソ連が治安の回復を理由に軍事介入に踏み切り、反ソ連派であったムジャヒディーン（イスラム聖戦士）を米国が支援するなど米ソ連代理戦争と発展したが、1989年ジュネーブ和平協定によりソ連が撤退した。しかし、国際社会がアフガニスタンへの関心を失ったこともあり、ムジャヒディーンが統一した政治体制をとれないまま、内戦へと突入した。この間、アフガニスタン全土で治安は悪化し、多くの人々が近隣国へ難民として逃れていった。こうした中、96年にタリバンが全土の8割を掌握し、タリバン政権が発足した。タリバン政権発足後は、一時的な治安回復もみられたが、反タリバン政府による反撃が続き、また、女性の人権侵害をきっかけに国際社会から非難を受けた。2001年には米国の貿易センタービル同時多発テロを実行したといわれるテロ組織アル・カーイダをタリバン政権が援護しているとし、米国主導による軍事作戦が展開された。<sup>2</sup>

2001年11月にはタリバン政権が崩壊し、ボン合意により、暫定行政機構が発足し、04年1月には憲法制定ロヤ・ジルガ（国民大会議）により、新憲法が採択された。04年10月にはアフガニスタン史上初の大統領選挙が行われ、カルザイ大統領が選出された。新憲法に基づいて、05年9月には国会議会選挙が行われ、議会が発足し、新生アフガニスタンが誕生する予定である。しかし、20年以上にわたる内戦、戦乱により社会基盤のほとんどが崩壊している上、治安回復、インフラ整備、ケシ栽培撲滅、経済の立て直しなど、新政府は、多くの課題を抱えている。

### 1) - 2 - 1 アフガニスタンにおける教育の現状

近代のアフガニスタンでは、1929年にアフガニスタン国王となったナディール・シャーの努力によって教育への関心が高まり、1931年に発布された憲法では、政府の責任においてすべての子どもに初等教育を与えることが明記された。<sup>3</sup> しかし、その後、政情不安により、初等教育は十分に普及しなかった。1975年の成人非識字率は88%と推定され、1960年代から70年代にかけての小学校就学者の平均年間増加率は13%だといわれている。<sup>4</sup> ソ連の軍事侵攻、ムジャヒディーンによる内戦により、ほとんどの学校が破壊され、占拠された。タリバン時代には、女子の就学が原則禁止された。この間、知識人や教育者の暗殺が相次いだことから、多くの知識人は諸外国へと難民化した。

2001年末、タリバン政権が崩壊し暫定政権の樹立後、ユニセフの支援により教育省が実施した「バック・トゥー・スクール」キャンペーン（以下、BTS キャンペーン）が起爆剤となり、2002年から2005年の間に約400万人（うち3分の1が女子児童）の子どもが学校へ登録したほか、教員数も10万人を超えたと報告された。<sup>5</sup> 一方で、学校環境整備や教員研修、カリキュラムの改訂など教育分野における課題は山積している。全国約7600校の公立校の中で、約3分の2の校舎が何かしらのダメージを受けており、3分の1の学校で校舎がないため、子ども達は、木陰での青空学級、テントやモスクなどで勉強している。<sup>6</sup> また、半数の学校では教員が不足しており、教員の資格を持つものの、高等教育を受けている教員は全体の15%以下<sup>7</sup>であり、特に、地方では資格を持つ教員の確保が困難となっている。カリキュラムの改訂が進まず、30年前のカリキュラムを使っている地域もあり、副教材は皆無に等しい。

2005年度に教育省が発表した重点項目では、教育政策の改善、インフラ整備、カリキュラム及び教科書の見直し、教員養成、設備向上、ノンフォーマル教育の改善などを上げている。特に、カリキュ

<sup>1</sup> 国レベルの平和構築アセスメント（PNA）-平和構築に係る情報収集・分析-、関口正也、独立行政法人国際協力機構、（2004）p9.

<sup>2</sup> 同上

<sup>3</sup> アフガニスタンの教育—20世紀の教育とアフガン社会—、サイフ R.サマディ（内海成治訳・解説）、（2004）p2.

<sup>4</sup> 同上

<sup>5</sup> ユニセフ”Media Release” （2004）

<sup>6</sup> 教育省発表 （2004）

<sup>7</sup> 3と同様

ラム・教科書の見直し及び教員養成では、教育の質的向上を掲げており、暗記法が主流であるアフガニスタンの教育現場を根本的に見直すものといえる。<sup>8</sup>

【アフガニスタンのカリキュラム】

\* ナンガハール州ジャララバード市内の学校例（1週間の科目数）

Subject	Grade						Remark
	1	2	3	4	5	6	
Quran	2	2	2	2	2	2	宗教
Religious Education	2	2	2	2	2	2	宗教
Pashuto	8	8	8	6	6	6	国語
Dari	0	0	0	3	3	3	国語
English	0	0	0	3	3	3	外国語
Mathematics	5	5	5	5	5	5	算数
Language and Life Environment	0	0	0	2	2	2	社会
History and Geography	0	0	0	2	2	2	社会
Life Skills	2	2	2	0	0	0	道徳
Writing	2	2	2	2	2	2	道徳、技術、家庭、体育
Technology and Drawing	2	2	2	2	2	2	
Sport	1	1	1	1	1	1	
Total	24	24	24	30	30	30	

\* 1時間の科目授業は45分

1) - 2 - 2 図書室に関して

図書室及び理科室（実験室）の整備は、学校における環境改善の重点課題のひとつであるが、国家予算自体があくまで計画予算であり、校舎建設や教員研修の予算獲得も困難な中、優先順位は低い。図書室の設備確保などは、外部予算に頼られるため、援助機関の動向によっても左右される。教育省は、500冊以上の図書を所有する学校に対して1名の図書館員の雇用を認めたものの、実際には、予算確保が厳しく実現できていない。

援助機関などの支援により図書を確保できた学校においては、既存の教員の中から図書館員を選出するなどしている。

1) - 3 出版物とその普及

子ども対象の出版物は、中流家庭以上を対象にしたと思われる雑誌が約30年以上前に存在し、援助団体などが支援した刊行物も見受けられたが、どれも不定期発行で、内戦に突入して以来姿を消した。

聖典以外の図書自体がほとんど見られず、絵本に関しては皆無に等しい。大学では専門書などを保存しているが古いものばかりである。娯楽用には詩集やアフガニスタンに伝わるおとち話などが出版されているが、数は少なく、不定期に再発行されている。

1冊の本の値段は、下から上まで幅広いが、安いものでも外食1食分に相当するため、生活が苦しい庶民には手が届かない。また、難民として海外で生活した際に絵本や本、新聞などから遠ざかっていた人が多く、活字を読む習慣がほとんどない。識字率の低下の背景には、文字を覚えても日常的に接する機会もなく忘れてしまうという問題がある。

1) - 4 プロジェクト対象地域の概要とニーズ

アフガニスタンの東部地域は帰還難民の帰還率が高いこと、教育復興の緊急性が高いものの地理的

<sup>8</sup> Education and Vocational Training Public Investment Programme-National Development Budget SY1384-1387-, Government of Afghanistan, (2005)

な問題から教育整備が遅れがちであること、他の援助団体が長期的なビジョンでの教育分野における支援活動を実施されていないなどの理由により、本プロジェクトの対象地とした。また、事業の実施には治安の安定も大きな要素であり、比較的治安の安定しているナンガハール州の州都ジャララバード市内の小学校を対象とした。一方、ジャララバード市内は東部4州（ナンガハール州、クナール州、ラグマン州、ニューリスタン州）の中心都市であり、活動が定着すれば、ナンガハール州だけでなく近隣4州への波及効果も期待できる。

#### 1) ー4ー1 ナンガハール州の概要

\* 地図はナンガハール州が添付資料2、ジャララバード市は添付資料3。

対象地域であるナンガハール州は、アフガニスタン首都カブールより東へ約200キロに位置する。パキスタンと国境を接するナンガハール州は、古くから流通の町として発展してきた。人口の8割はパシュトゥン人で占め、そのほかにパシャイ族やシーク教徒などが少数派として見られる。パシュトゥン人コミュニティは様々な部族で構成されており、今日でも部族内の掟により地域ごとに統率されている。ナンガハール州では、ムジャヒディーンへの対ソ連戦争、そしてその後の内乱により、多くの人々が隣国であるパキスタンへと難民として流出した。タリバンの時代には比較的治安は安定していたといわれ、一部の難民が帰還し、2001年の米軍空爆後には40万人以上の難民が帰還した報告されている。<sup>9</sup> ナンガハール州内のほとんどの学校は、戦争・内乱で破壊され、数校がマドラッサ（宗教学校）として、開校した以外は閉鎖されていた。地方の村落では、教員が難民として流出したままで、小学校低学年程度しか終了していない村人が教壇に立っているところも少なくない。

パシュトゥン地域は、文化上の特徴も際立っており、女性に対しての生活上の規制が強い。女性の結婚年齢も低い上、成人女性が一人で外出することは困難である。女性の社会進出は、市内ではほとんど皆無に等しい。タリバン時代には一切禁止された女性の社会進出であるが、現在では、教員や医者、看護婦など一部の職種においては認められている。

軍閥の解体や民兵の武装解除と社会復帰はナンガハール州の治安を左右するものである。また、早魃の激しいナンガハール州で唯一換金作物であった芥子栽培は軍閥の資金源とも言われ、その撲滅が最優先課題である。教育の復興は、治安の安定のためにもニーズが高い。

ナンガハールの人口分布(単位は千人)

市・郡名	合計	男性	女性
Jalalabad	181	87	94
SurkhRoad	110	54	56
Hisarak	23	11	12
Sherzad	48	23	25
Khogyani	106	52	55
Chaprahar	44	21	22
Pachir Wa Agam	31	15	16
Dih Bala	34	17	18
Rodat	52	25	27
Achin	72	35	37
Nazyan	8	4	4
Dur Baba	26	12	13
Shinwar	35	17	18
Lal Pur	33	16	17
Goshta	14	7	7
Bati Kot	56	27	29
Kama	76	37	39
Kuz Kunar	49	24	25

<sup>9</sup> UNHCR 発表 (2003)

Dara-I-Noor	40	19	20
Kot	35	17	18

(Afghanistan Statistical Yearbook, Transitional Islamic Government of Afghanistan, Central Statistics Office 2003)

#### 1) - 4 - 2 ジャララバード市の概要

ジャララバード市は、ナンガハール州の中心地だけでなく、東部地域4州の中心地でもある。帰還難民の多くは、地方の村に帰ることができず、日雇いの仕事を見つけ生計を立てるためにジャララバード市に留まり、国内避難民となっている。ジャララバード市内には現在22校の学校があり、その多くがマンモス校である。古くからの歴史を持つ学校もあるが、ジャララバード市の人口増加に伴い、どの学校も飽和状態である。

#### ジャララバード市内学校及び生徒・児童数

学校名	教員数	男子数	女子数
Shaeed Mohammad Arif Boys High School	70	4950	0
Bibi Hawa Girls High School	66	0	4612
Joyhaft Boys Middle School	40	2610	0
Nazo Ana Girls High School	46	0	3022
Majibor Abad Primary School	38	1333	695
Mia Omar Boys High School	90	3510	1030
Istiqral Boys High School	7	457	0
Nangarhar Mechanic High School	18	107	0
Abdulhaq Boys High School	19	94	0
Abdurahim Niyaz Primary School	23	1017	522
Chiknawori Boys High School	91	5051	0
Tajirubawi Middle School	88	3741	1556
Bibi Zanab Girls	112	0	5052
Nasrat Middle School	86	4017	924
Abdul Wakeedl Middle School	74	3684	278
Nangarhar Boys High School	95	3848	0
Bibi Aisha Girls Middle School	170	1191	2611
Alai Girls High School	81	30	3220
Araban Boys Middle School	24	1192	0
Markazi Darulhifaz	9	290	0
Sewad Hayati	7	0	141
Sewad Amozi	42	1536	0

(Registration Book, Department Of Education, Nangarhar Province, 2004)

#### 1) - 4 - 3 - 1 ナンガハール州における教育の状況

ナンガハール州教育局（以下、教育局）によれば、ナンガハール州で公立校は301校で、6,763名の教員が登録されている。182,705名の男子児童、90,663名の女子児童が学校に通っている。その内、全体の30%の100校に校舎がない。52校が女子校であるが、その25%の13校に校舎がない。10校舎のない学校では、野外における青空教室で授業が行われているが、早魃の厳しいナンガハール州では、木が少なく木陰がない学校もあり、炎天下は暑さのために授業は中断しがちである。また、冬季や雨季も学校は休校となる。

就学率は約60%だといわれているが、未就学児は、家事労働やその他の労働に従事しており家計を

10 ナンガハール州教育局データ（2005）

助けている。学校に行く最低限の費用がまかなえず学校に行けない子どももいる。女子に関しては、結婚適齢期にあたる 14 - 15 歳くらいになると両親は学校に行かせたがらない。都市部の設備の整った学校以外では、小学校 4 年生になると女子の就学率が激減する。登録されている教員中、実際に高等教育を受けたのは数%と見られており、地方では小学校も卒業できていない教員が多々いる。

#### 1) - 4 - 3 - 2 ナンガハール州における図書館活動の現状

授業を行う教室すら不足しているナンガハール州内の学校の中で、図書室のスペースを設けている学校はジャララバード市内の少数の学校に限られている。図書を所有している学校では、職員室や教室の一部に図書を保管しており、当会の事業実施校においては図書箱を活用してもらっている。図書館員がないので、図書の管理はずさんであるが、独自に貸し出しを始めたり、授業で図書を活用したりなど、積極的に図書を活用していきたいという姿勢はみられる。しかし、市内の学校や地方でも郡の中心校は児童数が多いため、授業の 2 部制を導入しており、最低限のカリキュラムをこなすのにも精一杯であり、読書推進のための時間を設けることが困難となっている。そのため、読書推進のために、体育の時間を利用したり、社会の時間を利用したりしているケースもある。

#### 1) - 4 - 4 対象地域、周辺地域での国際機関、NGO 活動状況

国連関係では、ユニセフが学校建設、トイレ・井戸の設置が継続しており、2005 年度に終了する予定である。教材・教科書配布は、今年度は小学校 2 学年から 6 学年の合計 182, 578 名を対象に実施される予定である。緊急支援として開始した BTS キャンペーンは今年度には終了し、2006 年度以降については新たな開発事業を検討している。

その他、EU や日本政府による草の根無償資金協力などの支援により現地 NGO が各地に学校を新築・増築・改築している。ただし、これらは全て単発の委託事業であり、予算が終了すれば事業も終了する。

教育支援事業を軸として展開している NGO に関しても、規模の縮小化が目立っており、2005 年度事業に関しても、多くの NGO で予算の目処がついていない。また、図書館系の支援では、Relief International が、学校に対して棚や本の提供したにとどまっている。対象内域における今年度の教育関連事業に関わる主な NGO は下記の通りである。

なお、当会のアフガニスタンにおける活動は、年次報告書（関心表明に添付）と写真（添付資料 4）を参照のこと。

団体名	活動内容	活動地域
Relief International	School Library Project ナンガハール州の 109 校に対して学校図書室を設置、棚や本 400 冊を供与。	Jalalabad, SokRod, Besood, Rodat, Dara-I-Noor, Khogyani, Chaparahar, Khewa, Debala, Kama, Bati Kot, Mohmandara, Achin, Dorbaba, Pachir Wa Gham, Hisarak, Sherzad, Lal Pur, Goshta, Kot
PRT/USAID	学校修復 学校用品配布など	
International Rescue Committee	学校建設及び学校図書室	Kama, Ghani Khel, Rodat
AFRANE	モデル校支援	Jalalabad
Solidarite Afghan Belgium	武装解除少年兵の職業訓練	Jalalabad

## 2) 事業の具体的内容

### A.事業計画

#### A-① 事業終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標

##### 【プロジェクト目標】

図書館活動が学校活動に取り入れられる。

##### 【指標】

- ・定期的に図書館活動が行われている対象校の数
- ・読み聞かせが実施されている対象校数
- ・おはなしの回数
- ・対象校の図書室の利用者数
- ・対象校の本の貸し出し数
- ・対象校で絵本を読んだことのある生徒の数

#### A-② 事業終了後、将来的に達成が期待される目標（上位目標）と指標

##### 【上位目標】

初等教育の質が向上する。

##### 【指標】

- ・就学率、滞留率、留年率、退学率

#### A-③ 事業終了時の目標達成のために具体的に生み出すべき成果

##### 成果1) 小学校教員が図書館活動を実施するための基礎知識を習得する。

##### 【指標】

- ・図書館員育成研修会の参加者数
- ・一般教員図書館活動研修会の参加者数
- ・図書館員を配置している学校の数
- ・授業で絵本を使っている教員数

##### 成果2) 対象校の子どもたち及び教員の図書へのアクセスが改善する。

##### 【指標】

- ・学校の図書室を利用したことがある子どもの数
- ・絵本・本を読んだことがある子どもの数
- ・図書館もしくは図書スペースを設けている学校数

##### 成果3) 教育局より選出された職員が絵本・本及び図書活動に対する基礎知識を習得し、指導・助言ができるようになる。

##### 【指標】

- ・養成された教育局職員の数
- ・教育局職員が受けた研修の数
- ・教育局内に図書館担当者が配置される

#### A-④ 成果を生み出すために必要な活動

##### A-④-1 図書館活動に関する研修会の実施（成果1に関連）

ジャララバード市内の小学校 22 校に対して、一般教員対象の図書館研修会を 5 日間ずつ 2 段階に分けて実施する。この研修は、小学校の全教員を対象とし、学校教育の中で図書館活動を取り入れる意義を理解するとともに、図書館活動の理論・実践に関する基礎知識を習得できるようにする。また、図書館員及び校長を対象とした 3 日間ずつ 3 段階の図書館員育成研修会を実施する。

研修会は、当会の図書館活動職員 4 名及び教育局職員 4 名で 2 チーム構成する。ジェンダー配慮のため、女性職員は主に女性教員を担当する。一般教員図書館研修に関しては、1 チームが上限約 50 名の教員に対して研修を行う。授業が午前と午後の 2 部制の場合は、適性時間に配慮し、午前と午後それぞれ研修を行う。

一般教員図書館活動研修会（5 日間）の開催年

	2006	2007	2008
第 1 回目	10 校	12 校	
第 2 回目		10 校	12 校

一般教員図書館活動研修会 第 1 回目（5 日間）

日時	内容
1 日目	図書活動の紹介、おはなしの世界、講座（子どもにとってのおはなしの重要性）
2 日目	おはなしの種類とよみきかせ、実践、児童心理からみるおはなし
3 日目	教材作り、紙芝居作成（実践）、紙芝居よみきかせ（実践）
4 日目	講座（本の選択、図書活動の種類）
5 日目	本の修繕（実践）、質疑・応答、評価

一般教員図書館活動研修会 第 2 回目（5 日間）

日時	内容
1 日目	図書室のあり方（基礎）、図書箱の活用法
2 日目	教材づくり（実践）、身近にあるものを使っての工作
3 日目	学校教育でどのように活用できるかを考えるグループワーク
4 日目	配布絵本の紹介、絵本の選択（良い絵本・悪い絵本とは？）
5 日目	図書の貸し出し（基礎）、質疑応答、評価

図書館員育成研修会は、1 校 4 名（校長・教頭含む）を対象とし、1 回のワークショップで 12 名を対象とする。

図書館員育成研修会 第 1 回目（3 日間）

日時	内容
1 日目	図書室のあり方、図書館員の役割、学校教育活動の中の図書室
2 日目	図書活動の例、本の配置と仕分け
3 日目	貸し出し、留意点、質疑応答

図書館員育成研修会 第 2 回目（3 日間）

日時	内容
1 日目	図書室のあり方（2）、記録のつけ方
2 日目	図書室の規則、おはなし読み聞かせ、絵本・紙芝居
3 日目	絵本の修繕

図書館員育成研修会 第 3 回目（3 日間）

日時	内容
1 日目	図書室のあり方（3）、図書の選択
2 日目	グループワーク、各校の図書活動に関して意見交換・改善点などを議論し、発表。
3 日目	まとめ、質疑応答、評価

A-④-2 移動図書箱活動の実施（成果 1、2 に関連）

月に 1 度 SVA 職員及び教育局職員が対象校を巡回し、図書箱活動を実施する。図書室（図書スベ

ース)に配布されていない絵本・本 50 冊を図書箱につめ貸与する。1 回の活動で、1～3 クラスの児童約 50 名から 100 名を対象にし、スポーツの時間などを利用して、約 30 分から 1 時間ほど、読み聞かせやゲームなどを実施する。活動後は、教員らと会合を持ち、課題について話し合う。

移動図書箱活動の際には、モニタリングも兼ね、大会作成のモニタリングシートに沿って、データ収集を行う。夏季休暇となる 6 月中旬から 9 月の初旬の間は、移動図書箱活動は行わない。

#### A-④-3 絵本出版 (成果 2 に関連)

アフガニスタン国内で収集した民話の中から、4 タイトル (ダリ語 600 冊、パシュトゥン語 600 冊 合計 1200 冊) を出版する。出版委員会を構成し、委員会において、民話の選定、文章の構成などを協議する。出版委員会は、これまでにナンガハール州教員養成大学副学長、教授、児童文学作家、児童心理学学者、教育局職員などから構成されてきた。これに、女性委員の選出を予定している。おはなしの選定にあたっては、以下の基準によって選考する (大会が出版した絵本を添付資料 5 として添付。日本語の訳文は絵本の内側に挟み込んだ)。

##### 【民話選定の基準】

a. 言語、b. アフガン文化に沿っている、c. 政治的でない、d. 攻撃意欲をそそるものではない、e. 平和を推進するもの、f. 真摯で教育を推進するもの

##### 【出版のフローチャート】

- ・ 民話を収集する
- ↓
- ・ 出版委員会において民話を選考する
- ↓
- ・ 選考された民話を子どもたちに読み聞かせる  
その反応により絵本出版するおはなしを決定する
- ↓
- ・ 絵本製作 (脚本の作成、画家の選出、文章の構成、脚本と文章のすり合わせ)
- ↓
- ・ 出版委員会において、最終的に出版する絵本の内容チェック
- ↓
- ・ 絵を加えて、教育省に見本を提出し許可をとる
- ↓
- ・ 出版

#### A-④-4 図書・教材の配布 (成果 2 に関連)

対象校に 700 冊の絵本・本 (パシュトゥン語 100 冊、SVA 出版 500 冊、日本語絵本 50 冊、その他の絵本 50 冊) 及び紙芝居 (2 セット) を供与する。2 年目と 3 年目には SVA の出版絵本 300 冊及び紙芝居 2 セットを補充する。また、供与する絵本は、以下の点を留意する。

##### ・パシュトゥン語の選定に関して

大会が 2003 年に調査した際には、パシュトゥン語の本はかなり少なく、絵本に関しては、イギリスの NGO が不定期に発行する 22 タイトル以外は皆無に等しい。よって、パキスタン側で発行されているパシュトゥン語の本も対象としている。大会スタッフが、すべての本に目を通し、文化的・宗教的に適当であるかを確認する。場合によっては、出版委員会<sup>11</sup>の助言を求めながら選択する。

##### ・SVA 出版絵本に関して

大会が年間に出版している絵本や紙芝居で、出版許可の際にすでに教育省より配布の許可を受けている。出版絵本の選出に関しては、前述の A-④-3 を参照。

<sup>11</sup> SVA が独自に絵本を出版するにあたって構成した出版委員会、教員養成大学教授や教育局職員、児童文学作家がボランティアで参加している。

- ・日本語絵本に関して  
宗教や文化的に問題ないと判断された絵本に訳文を貼り付け、配布する。
- ・その他の絵本に関して  
教員や上級学年の児童たちも興味を持てるように、成人向けの本を配布する。おはなし、料理、歴史、詩集、宗教などのテーマを対象にしている。

#### A-④-5 図書室に必要な家具の配布と図書室の整備（成果2に関連）

図書室（図書スペース）に対して必要な本棚及び家具を対象校に供与する。

##### 【供与家具・教材一覧】

- ・木製本棚（大）150cm×115cm×35cm 1個
- ・木製本棚（小）100cm×120cm×35cm 3個
- ・スチール製本棚 170cm×110cm×35cm 1個
- ・木製丸テーブル直径 100cm×高さ 35cm
- ・図書室員用 机・椅子
- ・教材（筆記用具、登録ノートなど、ポスター）
- ・カーペット

#### A-④-7 教育局職員育成のための図書館研修（成果3に関連）

教育局職員が、事業終了後に独自に各校への助言・指導・モニタリング、また更に遠隔地への活動の普及ができるように育成する。選出された教育局職員は研修開催時期の3ヶ月前から当会の図書館事業課職員とともに、計画・準備段階から活動に携わる。この期間には、定期的に子ども図書館での実際に子どもと関わりながら図書活動の実践を学ぶとともに、SVA作成の「図書館研修マニュアル」に沿った講義を受ける。

#### A-⑤ 活動を行うために必要な投入（人材、資機材等）

##### 【人材】

- |                     |    |
|---------------------|----|
| ・プロジェクトマネージャー（日本人）  | 1名 |
| ・アシスタントプロジェクトマネージャー | 1名 |
| ・事業調整員              | 1名 |
| ・事業調整員アシスタント兼出版担当   | 1名 |
| ・学校図書スタッフ           | 2名 |
| ・移動図書箱活動及び配布担当      | 1名 |
| ・カブール事務所担当          | 1名 |
| ・運転手                | 2名 |
| ・経理、総務スタッフ          | 2名 |
| ・警備員                | 8名 |
| ・国内調整員（日本人）         | 1名 |
| ・国内総務・経理（日本人）       | 1名 |
| ・州教育局より選出される職員      | 4名 |

##### 【資材】

- ・図書
- ・移動図書館箱（本棚）
- ・図書館活動マニュアル5種
- ・研修会で必要な紙、マジックペンなどの文房具

## A-⑥ 事業の実施にあたり考慮すべき重要な事項、リスクなど（前提条件、外部条件）

### 【前提条件】

アフガニスタン国の治安が安定しており、紛争状態にならない。

### 【外部条件】

（活動）

- ・教育局が事業の実施を認める。
- ・研修を受けた教員、図書館員が大量に退職しない。

（プロジェクト目標）

- ・政府の交代などで、根本的な教育方針が変更しない。

## B. 事業の受益者層

事業の直接受益者は、対象校であるジャララバード市内 22 校の教員及び、図書館員及び教育局職員である。1,213 名の教員が図書活動に関する基礎的な知識と実践能力を身につけ、44 名の図書室職員、22 名の校長、22 名の教頭の計 88 名が図書室を運営・活用するための知識を取得する。間接受益者は、図書室開設後、図書活動推進後にその活動の受益者となる児童、63,617 名である。

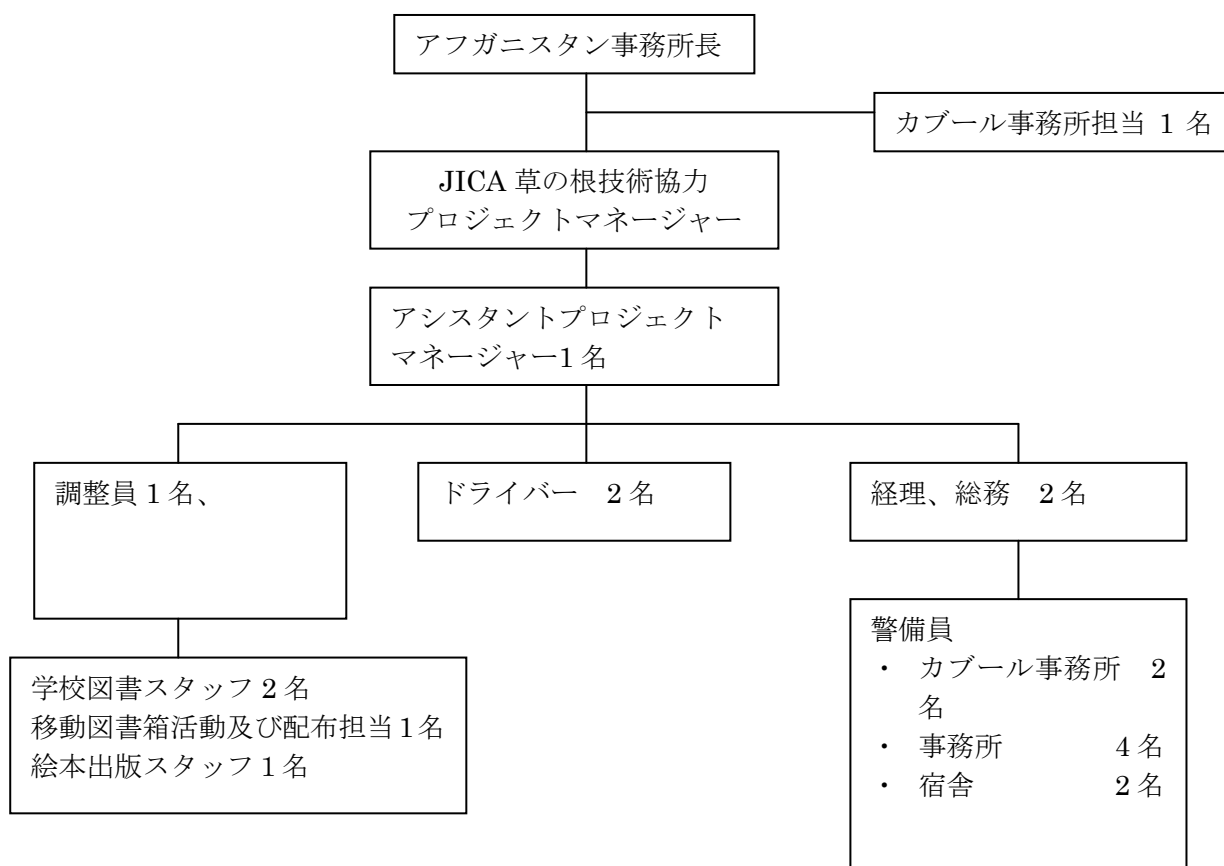
図書ワークショップに関わる教育局職員 4 名及び移動図書箱活動に関わる教育局職員 1 名に関しては、SVA 職員とともに図書活動ワークショップの準備や実施に関わる中で、活動に対する理解が高まるとともに、今後、教育局が図書館活動を監督していくための能力強化にもつながる。

### 3) 事業の実施・支援体制

#### A. 現地及び国内での事業実施・支援体制

##### A-1 現地での事業実施・支援体制

当会アフガニスタン事務所の組織図は以下の通りである。



アフガニスタン事務所長は、東京事務所の事務局長の管轄下であり、各事業課の指導・管理を行う。毎月、所長、プロジェクトマネージャー、アシスタントプロジェクトマネージャーの出席するマネジメント会議が行われ、各事業や事務所管理の調整をする。更に、オペレーションセクション（経理総務部門含む）が各事業課のサポートをしている。

また、当会の他国の事務所（タイ事務所、カンボジア事務所、ラオス事務所、ミャンマー難民事業事務所）においても、図書館活動を実施しており、それらの事務所から過去の知識や経験の支援を受けることも可能である。

##### A-2 国内での事業実施・支援体制

当会東京事務所には、事務局長の管轄下に、海外事業・企画調査課、国内事業課、緊急支援室、広報課、経理・総務課があり、各課に課長及び職員を配置している。

海外事業・企画調査課は、アフガニスタン事業に関する管理、資金調達、専門化派遣、研修生受け入れ、援助物資調達輸送、事業評価、調査研究を行っているほか、現地派遣日本人スタッフが病気などで一時的に勤務できなくなった場合に、職員を短期派遣する。

経理総務課は、アフガニスタン事務所の予算編成及び予算管理、資金管理、会計業務等について指導・監督し、決算報告においては最終チェックを行っている。

監査体制については、2名の監事による内部監査を実施すると共に、新日本監査法人と団体監査契約を締結し外部監査を実施している。

また、開発協力事業の実施にあたっては、当会理事会海外事業部会メンバーである赤石和則拓殖大学教授ならびに荒巻裕近畿大学教養学部教授をはじめとした経験豊富な理事・代議員より指導と助言を受けている。

## **B. 相手国実施機関との協力体制**

### **B-a. 相手国実施機関の概要**

当事業は、ナンガハール州教育局と協力体制の下で行われる。教育局（Department of Education, Nangarhar Province, Afghanistan）は、事業がスムーズに実施できるよう、以下のことをおこなう。

- ・ 各学校への連絡
- ・ 当会スタッフとともにワークショップの準備と実行
- ・ 移動図書館活動の実行及びモニタリング

子ども図書館に関しては、管轄局であるナンガハール州情報文化局（Department of Information and Culture, Nangarhar Province, Afghanistan）と協力し、現在州の図書館が活動休止となっていることから職員を派遣してもらう。

### **B-b. 相手国実施機関との協力経緯、事業に関する協議状況**

今回の活動は公教育の場である学校を対象にしており、活動の持続性を考慮した場合、教育省・局との連携は必須である。また、学校教育の中での図書館活動は実施されておらず、図書室も、ほとんど整備されていない。2004年に当会が実施したワークショップにおいては教育局の協力のもとに実施し、学校への通知や会場のアレンジなどは教育局職員の協力によりスムーズに実施することができた。

今後は、教育局の中に、図書館活動の管轄を設け、職員の能力強化を実施することも教育局と協議していく。

### **B-c. 相手国実施機関などの事業実施コストの負担**

当会の活動への派遣期間中の交通費に関しては当会が規定により負担するが、規定以上の負担については自己負担となる。

## **C. 相手国実施機関との事業のモニタリング・評価の方法**

### **C-1 モニタリング**

移動図書館活動については、教育局職員が同行し、現状や活動の進捗状況を把握してもらう。月に1回の定期的な訪問の際には、当会スタッフが当会作成のモニタリングシートを利用して、観察を主にしたモニタリングを実施する。

図書活動ワークショップが終了後には、当会スタッフが、当会作成のモニタリングシートを元にモニタリングを実施する。観察だけでなく、教員、児童らのインタビューを行い、現状や課題点を把握する。モニタリングの結果はデータ化してまとめ、事業の評価に利用する。

### **C-2 評価**

事業最終年には弊会内部の評価チームを派遣して、最終評価を実施する。それらの評価活動には、プロジェクトマネージャー、アシスタントプロジェクトマネージャー、教育局職員、国内調整員ほかに参加して実施する。

## **4) 事業の自立発展性の確保の展望**

本事業は、アフガニスタン国内では、初の試みであるが、教育省の掲げている重要課題のひとつであるカリキュラム編成や教員養成改善の過程に補足的な役割を行うもので、妥当性が高い。おはなし、読み聞かせの具体的な活動を通して、教員自らがその価値を見出し、授業に積極的に取り入れていくことが期待できる。また、教育局職員の育成により、教育局の中でも当事業の重要性を認識し、担当窓口を設置し、今後も学校に対するスーパーバイズの一環として、図書活動の推進をしていくことが期待できる。

## **5) その他（安全配慮、広報計画など）**

### **A. 安全配慮**

当会は2003年にアフガニスタン国での教育開発事業を開始して以来、安全配慮に関して「安全退

避方針」を作成し、東京事務所とも協議を重ねながら、「安全退避方針」に基づいて活動を展開してきた。このガイドラインは、国連機関や国際 NGO などの安全対策を参考にし、日本人スタッフ及び現地スタッフに関しても、治安管理訓練を受講するなど能力強化にも力を入れている。

詳細は、当会の「安全退避方針」を参照（添付資料 6）。

## **B. 広報計画**

活動についての広報は、当会東京事務所広報課が発行している機関誌「シャンティ」（平均 3,500 部）での特集や海外事務所活動報告欄、パンフレットでの掲載、インターネット上のホームページを通して実施していく。また、担当者帰国の際には、公開の報告会を開催していく。

また、アフガニスタン国内については、治安確保の観点から、積極的にマスメディアに広報できないものの、必要に応じて働きかける。